

## 第6回 校長会議あいさつ

R2.8.25 稲垣

例年より一週間早い二学期が始まりました。記録的な猛暑の峠は越えつつあるものの、日中はうだるような毎が続いており、子どもたちの熱中症が心配されます。休み明けの健康観察は特に念入りをお願いします。また、二学期には修学旅行をはじめ、大きな学校行事も控えています。安全には十二分の配慮をしながら、教育活動を充実させるようにご尽力ください。

本日は3点についてお話しします。

1点目は、楽しい学校づくりについてです。現在、学校では、さまざまな制約や手間のかかる生活様式を続けなければならない状況です。コロナ禍により止むを得ず自粛する活動も少なくありません。しかしながら、子どもたちにとっては、一生に一度の小学校時代であり中学校時代です。全教職員の知恵と力を結集して、少しでも子どもたちの心を揺さぶり思い出に残る場面を作ってください。

2点目は、コロナ対策についてです。本市にも感染の第二波が到来しました。地域の状況としては、文部科学省通知における安全性の基準で、三段階のうち最も安全性の高いレベル1からレベル2に低下しました。このため学校での教育活動も以前のような制約が再開されることになりましたが、慣れてきた新しい生活様式を遵守しながら、学習が遅滞なく進むように工夫をお願いします。市内の感染者も徐々に増加してきています。学校においても、いつ感染者が出てもおかしくない状況と捉えなくてはなりません。修学旅行等、宿泊行事の実施にかかわる対応については、本日の連絡内容にありますが、何よりも子どもたちやご家庭が風評被害に合わないよう児童生徒を指導するとともに、保護者や地域の方たちにもご理解ご協力を得るため、適切な情報発信をしていく必要があります。情報発信の指針についても後ほど課長から説明をいたします。

先日の報道で、集団感染の起きてしまった高校が酷いバッシングを受け、生徒たちの精神面も心配されるというニュースを目にしました。SNS等による無責任な批判や中傷の弊害は、以前から深刻な社会問題になっているにもかかわらず未だに後を絶ちません。このコロナ禍を機に改めて問題を見つめ直し、無責任な言動を忌避する感性が公衆道徳として定着することを切に願います。特に私たち教職員は毅然とした態度で臨み、風評被害から子どもたちを守らなくてはなりません。コロナに感染したくて罹る人は誰もいません。不幸にも感染してしまった人が、理不尽な辛い思いをすることのないように、皆の気持ちを合わせていきたいと思えます。

3点目は、図書を紹介です。言語能力が、児童生徒の全学力の基盤となることは言うまでもありません。小学校で学習が開始される以前に、乳幼児期から言語能力の獲得が始まっていることも周知のことと思います。外山滋比古先生の『わが子に伝える「絶対語感」』では、言語感覚が人格形成上大きな役割を有することとともに、乳幼児期の言語能力の育ちについて、具体例を多用しながら明確に述べられています。小学校英語やICT教育が注目されがちな風潮にあって、学校教育の起点を再確認させてもらえると思えます。